

JOURNAL Vol.1



株式会社 エーエルジェイ
代表取締役社長
釘嶋 博之

グローバル化とダイバーシティをALJが推進する理由



ALJのサステナビリティ

～SDGsとCSR～

『全アジアの情報産業界の発展に寄与し、勝ち得た成功の恩恵を従業員で分かち合えること。また、その一部を世界平和の為に還元できるグローバル企業であること。』これは弊社のフィロソフィーの一つです。地域社会とともに持続的に成長、発展し、社会から認められたエクセレントカンパニーを実現するため、たとえ小さなことでもまず行動し、その行動を継続することが重要だと考え、積極的に社会貢献活動を推進しています。

独自のビジネスモデル



ALJ Groupのビジネスモデルは、ダイバーシティとグローバル化を組み込んだ独自のビジネスモデルです。国籍・性別・年齢を問わず、能力ある人材を採用し、平等に評価される組織づくりを目指しています。「エンジニアファースト」を掲げ、働きやすい環境づくりも進めています。教育面では未経験者にIT研修を行い、業界で活躍できる人材育成を行っています。

IT教育



未来のIT人材の確保に向け、学生向けに無料のITセミナーを開いたり、他業界からの転職者に業界の基礎やIT教育を行い、活躍できる人材を育てています。また、高度人材を含む東南アジアからの人材の受け入れを現地の教育機関と提携し、教育から日本での実践投入までも一貫して実施しています。

社員の働きがい



●Work Life Priority
人生のライフイベントに合わせ、働き方を変えたり、休暇を取ったりしながら企業と共に歩み続けるサステナブル・キャリアという考え方を推奨しています。各々の社員が今一番優先すべき事柄において集中できる仕事環境を実現していく。これをALJでは“Work Life Priority”（仕事と生活の優先順位）として支援しています。

●キャリア支援
各社員のキャリア管理は、上長や担当者だけでなく、第三者的な視点からも必ずチェックが行えるよう人事部主導による透明性を重視した個別面談を定期的に行っています。

●就業環境改善
社員の安全と健康を確保し、快適な職場環境の形成を促進することを目的として専門の産業医と顧問契約をしております。産業医と共に勤務状況のチェックを行い、長時間労働者には医師の指導の下、対象社員へのストレスチェックを義務化し業務改善の指示を行うなどの健康増進サポートを全社的に取り組んでいます。

ダイバーシティ



●外国籍エンジニアの積極的な活用
ダイバーシティへの取り組みの一環として、外国籍エンジニアの積極的な活用に取り組んでいます。ミャンマー現地での採用や、優秀な人材が日本でキャリアを積む事をサポートするサービス“ALJ GLOBAL Career”を運営しております。

●女性の活躍（JISAダイバーシティ戦略）
国内有数の同業者組合が運営するダイバーシティ戦略に賛同し、女性が結婚・出産してからも働ける環境を用意し、女性活躍を推進しております。

●シニア層の活用
国内の経験豊富なシニア層エンジニアがスキルを生かせるフリーランスサービスを運営しております。スキルを生かし、プロジェクトリーダーやマネージャーとして、後輩エンジニアを育てる立場をお任せするなど、弊社とシニア層を生み出せる場で活躍していただいております。

ボランティア活動



夏には江ノ島の海岸、年末には本社のある新宿三丁目の清掃ボランティアを行うことが恒例となっております。過去には被災地でのボランティア、富士山の清掃活動など様々なボランティア活動を行なっています。

寄付金援助活動



毎年、各種慈善団体を通じて、国内災害、介護福祉、児童福祉などへの寄付金援助活動を全社員で取り組んでいます。

ECOグッズ企画制作



資源の有効活用や、海洋プラスチック問題に取り組むため、毎年期首にエコバッグや携帯ストロー、タンブラーなど日常で繰り返し使え、ゴミの削減に繋がるグッズを企画制作し、ノベルティとして全社員に配布しております。





外国籍のキャリアアップサービス「ALJ GLOBAL Career」で入社した社員達

国内有数の同業者組合が運営するダイバーシティ戦略に賛同し、女性活躍推進のため、福利厚生を整えました。結果、当時業界の中でも珍しく、女性社員が30%以上を占めるようになりました。また、経験豊富なシニアがスキルを生かす事ができるフリーランス

としていく必要があると感じたのです。目が覚める思いでした。そこで、グローバル化とダイバーシティを組み込んだ次世代のビジネスモデルとして、ALJグループ構想「新10年ビジョン」を創出し、加えて独自のコミュニティを築いていける新しい仕組み作りに取り掛かりました。我々はこれを価値共創（コ・クリエーション）の同志群戦略と呼んでいます。

「そうしてグローバル化とダイバーシティを組み込んだ同志群戦略を始めたのです。」

「皆が平等で公平誠実な組織づくりを」



グローバル化とダイバーシティをALJが推進する理由

株式会社エーエルジェイ 代表取締役社長

釘嶋 博之 Kugishima Hiroyuki

【略歴】
2000年、ITベンチャー企業にエンジニアとして入社。2003年、マネージャー就任。
2004年、執行役員と歴任し、技術部門、営業部門、人事部門、経営部門と全社の経営戦略・事業戦略に中核メンバーとして幅広く携わる。
2006年より、アドバンス・リンク株式会社（現 株式会社エーエルジェイ）設立、代表取締役社長 兼 CEO就任（現任）。
2013年3月、市場調査・自己研鑽の機を得て、アメリカ、アジア諸国（7か国）を1年ほどかけ歴訪。帰国後、ALJグループ構想「新10年ビジョン」を立ち上げる。
2014年4月、ALJ Myanmar Co.,Ltd.設立、Chairman就任（現任）。
2015年10月、ALJ Education Plus株式会社設立、取締役就任（現任）。
2016年4月、ミャンマー法人STUDY & WORK JAPANと事業提携、Executive Adviser就任（現任）。
2020年5月、ALJ DXTech設立、取締役就任（現任）。
ALJグループ構想「新10年ビジョン」実現に向け、次世代のビジネスモデルを自らプロデューサーとして奔走する傍ら、近年においては後進の育成にも積極的に携わり、ALJ Group CEOとして果敢に挑戦を続けている。

2006年の創業から延べ15年以上にも渡る企業活動の中で、ワークシフトからなる労働環境の整備や外国籍社員の積極採用、2021年以降にはインドネシアに海外法人2社目を設立予定等、ALJがグローバル化とダイバーシティを推進する理由についてトップインタビューを実施致しました。

業界構造を変えたかった

「まずは、会社の成り立ちからお聞きします。ALJは2006年4月に設立されましたが、どのような経緯で設立に至ったのですか？」

2000年代初期のITバブルも終わる頃、別業界で営業職を経験した後、エンジニアとしてITベンチャー企業に就職しました。その当時のIT業界は、それ以前の3、40年の間に、建築業界のような縦割りのピラミッド型構造が構築されており、最新技術を扱っている業界でありながらビジネスモデルはとも古く、閉塞感のあるものでした。日本は世界に誇れる高度な技術を持っていたにもかかわらず、最先端のサービスやチャレンジを実現させるためには何重にも重なる上司への承認作業が必要で、また出る杭は打たれるような慣習でしたので、今の日本経済の衰退は必然ではなかったかもしれません。そして、この時期よりインターネットを中心としたITサービスが急速に欧米のものに置き換わってゆくのをリアルタイムで垣間見るようになりました。その激動の最中、ALJを起業しました。今こそ力強く発信している「この業界構造を変えたい」という明確なビジョンを持つまでにはまだ至っていませんでしたが、

創業のきっかけとなった「全てのエンジニアが平等に評価されチャレンジが出来る会社を創りたい」という想いは確固たるものでした。

人口減少・少子高齢化から、新しいビジネスモデルの構築

「海外にオフィス会社を設立したきっかけは何ですか？」

創業当初「創業10年、社員数100名、売上高10億」という営業らしい語呂の良い目標を掲げ、業界の激動の変化の中でも時代の流れに合わせ変化しながら、毎年10%前後の順調な成長を続けていきました。2012年、日本の問題からなる社会構造の変化が加速する最中、想像していたよりも相当早く、これまでのビジネスモデルでは通用しなくなると考えるようになりました。

日本の人口は2010年頃ピークを迎え、人口減少、少子高齢化が叫ばれると同時に日本経済の低迷により、以前は沢山出稼ぎに来ていた中国人や韓国人、インド人の優秀なエンジニア達が日本から消えてゆきました。そして、日本人のエンジニア自体も極端に減少していることに気がついたのです。

自己研鑽も含めて2013年から1年ほどかけて、米国やアジア各地を訪れ、直接自分の目で見渡した時、業界も日本の働き方もガラパゴス化していると痛感し危機感を覚えました。日本の業界構造を変えるためには、まずは自分の会社を根本的に変えなくては行けない。これまでのピラミッド構造のビジネスモデルで会社を成長させていくのではなく、次世代型の多様性と広がりを持たせたWEB型の組織モデルへとシフト

サービスを作り、副業促進など就業機会の拡充を図りました。

「ミャンマーを選んだのは何故ですか？」

東南アジアの様々な国を調査した中で、ミャンマーは仏教国であることや、日本人と近い感覚を持っていること、若年層の人口が今後10年益々成長しそうなこと、親日家が多く勤勉であるということから候補に上がりました。たくさん良い点がありますが、最も決め手となったのは東南アジアの新興国の中でも治安が圧倒的に良いという理由が挙げられます。日本とミャンマーの国民性を考慮し2014年にALJMMをオフショア拠点第号として立ち上げました。

2018年からは日本国内のプロジェクト体制を強化していくため、ALJ GLOBAL Careerという日本でキャリアを積みたいと考えるミャンマー人向けのIT人材サポートサービスを開始し、現在多くのミャンマー人が社員として日本で働いています。更なる拡充を目的とし、次はインドネシアのジャカルタでの設立を予定しています。インドネシアも親日家が多く、人口ボーナスにおいては東南アジアの中でも断トツです。30年後には人口が3億人を超える

と予測されている成長が楽しみな国です。ミャンマーでのノウハウを生かして「ALJ Indonesia」を早期に成功させたい思いがあり、着々と計画進行中です。

社員の幸福度が上がる会社創りがしたい

WEB型の組織を実現するために必要な取り組みはどんなことですか？」

まずは、エンジニアファーストを掲げて、働きやすい環境づくりのアイデアを全部門で話し合いました。並行して、就業規則の見直しやテレワーク制度導入、本社オフィスの全面フリーアドレス化など、準備に1年程度かかりましたが、第一段階としては満足行くレベルでスタートできたと感じています。

まだ実験段階ではありますが、テレワークは時間や場所に縛られない多様な働き方が可能です。その一方で、社員同士が自由にアイデアを出し合える場所を作りたいと、思い切って本社を全面フリーアドレスにし

ました。明るく自由な空間作りを目指し、大型モニター付きのラウンジスペースを造ったり、漫画やゲームを置くことにより社員同士が自然と会話や弾むような空間作りを進めています。固定席がないことで、プロジェクトチームの自由な編成も可能になりました。将来的には、海外が拠点の社員が日本に来たり、日本の社員が海外に行ったり、プロジェクトに必要な人が必要な場所で働く、閉塞感のない自由な環境を整え、個々の意欲、能力が発揮できるWEB型組織を更に発展させていきたいです。

今後も、ALJグループに入って良かったと社員の幸福度が上がるような会社創りを目指します。



フリースペース



ラウンジスペース

執務室

社内をリニューアルし、フリーアドレス化。大きな窓を活かした明るいオフィスに、部署間のコミュニケーションが活発になり、固定席でないことからプロジェクトチームの編成が自由になった。ラウンジスペースを設け、プロジェクターを設置したことで、成果発表や、セミナーの場として、また、漫画を設置することで休憩時の交流の場として自由に利用されている。



ミャンマーのヤンゴンにあるALJ Myanmarのオフィス
社員数増加により増床移転を計画中

「経験を生かして次の挑戦を」

「グループ会社同士の協力関係はありますか？」

福嶋 ますはALJ社内のDX化、DXってデジタルトランスフォーメーションの他に、オペレーターエクスペリエンスという

「その経験から来年立ち上げ予定のALJインドネシアを濱口さんという話にもなっていますね。」

福嶋 ALJDXは設立されたばかりなのでこれから築かれていくと思います。ALJやALJMMの教育をALJEPが担って、ALJEPが使う教育コンテンツをALJDXが作ったりするのもできたらいいかなと思っています。そうやってお互い補ってゆけることだと思います。

「三年も前からお付き合いがあったんですね。本社長は落ち着いた方ですが、慕って」

福嶋 ALJDXは設立されたばかりなのでこれから築かれていくと思います。ALJやALJMMの教育をALJEPが担って、ALJEPが使う教育コンテンツをALJDXが作ったりするのもできたらいいかなと思っています。そうやってお互い補ってゆけることだと思います。

「経験を生かして次の挑戦を」

福嶋 ますはALJ社内のDX化、DXってデジタルトランスフォーメーションの他に、オペレーターエクスペリエンスという

「その経験から来年立ち上げ予定のALJインドネシアを濱口さんという話にもなっていますね。」

福嶋 ALJDXは設立されたばかりなのでこれから築かれていくと思います。ALJやALJMMの教育をALJEPが担って、ALJEPが使う教育コンテンツをALJDXが作ったりするのもできたらいいかなと思っています。そうやってお互い補ってゆけることだと思います。

ALJ Myanmar
オフショア開発 / 海外人材教育 / 現地コンサルティング

ALJ Myanmarでは、JavaとPHPに特化し、Webアプリケーション開発を得意としております。ラボ型や一括受託での開発を軸とした業務を行っており、ブリッジSEが駐在しているため日本との密な連携が可能です。日本クオリティの低価格・高品質なサービスをワンストップでご提供しています。

<http://www.aljmyanmar.com/>

ALJ DXTech

IoT、AR・VR、Wearable、AI、Cloud、FinTech、Bigdata等を用いた次世代デジタル(DX)技術開発

ALJ DXTechは、次世代デジタル(DX)技術に特化したシステム開発を強みとし、Mobile App開発を始め、IoT、AI、Fintech、Cloud、Bigdata等々、今後主流となるデジタル技術を軸としたALJ Groupの戦略的専門会社です。

ALJ Groupが長年培ってきたナレッジを基に、よりスピーディにより柔軟に、お客様のニーズにお応えいたします。

<http://www.aljdx.com/>



「技術者として、それ以外でも成長できる」

「本社長の紹介とのことですが、どこで」

福嶋 山本さんは「T教育を扱う子会社の社長をしながら、実際に登壇もしていらっ

「三年も前からお付き合いがあったんですね。本社長は落ち着いた方ですが、慕って」

福嶋 ALJDXは設立されたばかりなのでこれから築かれていくと思います。ALJやALJMMの教育をALJEPが担って、ALJEPが使う教育コンテンツをALJDXが作ったりするのもできたらいいかなと思っています。そうやってお互い補ってゆけることだと思います。

「技術を教えてください。」

福嶋 やっぱ、一番は本体のリソースを活用できることが一番大きいですね。

福嶋 ALJに転職して、ラフな服装で入社していいところがいいと思います(笑)。

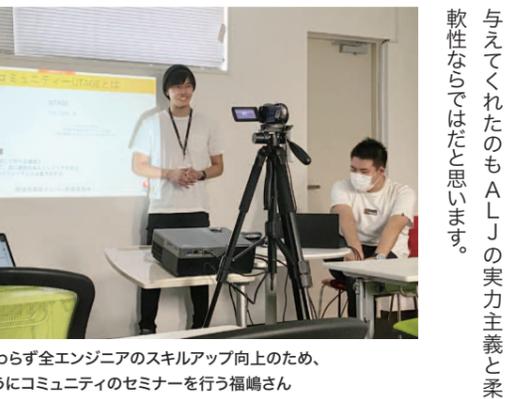
「子会社で起業すると小さなリスクで挑戦できる」

福嶋 やっぱ、一番は本体のリソースを活用できることが一番大きいですね。

福嶋 ALJに転職して、ラフな服装で入社していいところがいいと思います(笑)。

「技術を教えてください。」

福嶋 やっぱ、一番は本体のリソースを活用できることが一番大きいですね。



所属に関わらず全エンジニアのスキルアップ向上のため、毎週のようにコミュニティのセミナーを行う福嶋さん